

大分大学 経済学部 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

経済学部 【学士（経済学）】

		(1)専門的知識・技能の活用	(2)コミュニケーション能力	(3)創造的問題解決力	(4)社会的責務と倫理	(5)地域発展・人類福祉への貢献	(6)生涯学習力
ディプロマ・ポリシー	サステナブルな社会の構築とともに、地域・社会・生活の質の向上に資する人材を育成することを目的とし、以下の力を持った人材とする。	1 経済学・経営学を中心とした社会科学の諸分野を体系的、かつ、分野融合的に学修し、基礎知識や方法論のみならず、それらを横断する学際的な知見を身につける力。	2 多様なコミュニティのなかで、自己を表現し、他者との相互理解を図るためのコミュニケーション能力や、国際化・情報化に対応できる力。	3 修得した知識と能力を総合的に活用して、地域および国際経済社会の諸課題を社会との繋がりの中で自ら発見し、的確に分析できるとともに、その解決策を所属する組織や社会に対して説得的に提示できる力。	4 社会に対する責務と倫理、および公正で包摂的な制度を理解し、行動できる力。	5 人類の幅広い知を学ぶことによって、多様な文化や価値観を理解し、尊重するとともに、地域の発展や、社会・生活の質の向上に貢献できる力。	6 主体的な学びを生涯にわたって継続できる姿勢を身につける力。
カリキュラム・ポリシー	大分大学経済学部では、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために、基礎から応用に至る体系的な教育を行うとともに、これからの経済社会において求められるコンピテンシーを獲得するために、分野横断的な教育を行う。	2.1年次向けの学部専門基礎科目や、専門学習の土台となる学部基盤科目を置く。 3.能動的・主体的な学修姿勢を養う専門教育セミナー科目、および分析力・思考力・表現力を高める少人数の演習・卒業論文・卒業研究科目を必修とする。 4.系統的な学修を進めるため、経済、経営、地域研究の3つの領域で編成された科目群をメジャーとして置く。学生の所属メジャーは、参加する演習の担当教員が所属するメジャーとし、第3年次の初めに確定する。	1.専門性を発揮する基盤となる幅広い教養力を身につけるための科目や、情報化に対応する科目、地域・国際社会の持続的発展に貢献できる人材養成のための科目を置く。	5.早期からの主体的な学修を促すため、コース指定科目を1年次後期から開始する。コース指定科目は、専門教育科目の中からコースごとに指定され、コース指定の必修および選択必修科目により構成する。これにより卒業後も見据えたコンピテンシーの獲得を目指す。	1.専門性を発揮する基盤となる幅広い教養力を身につけるための科目や、情報化に対応する科目、地域・国際社会の持続的発展に貢献できる人材養成のための科目を置く。	1.専門性を発揮する基盤となる幅広い教養力を身につけるための科目や、情報化に対応する科目、地域・国際社会の持続的発展に貢献できる人材養成のための科目を置く。	1.専門性を発揮する基盤となる幅広い教養力を身につけるための科目や、情報化に対応する科目、地域・国際社会の持続的発展に貢献できる人材養成のための科目を置く。 5.早期からの主体的な学修を促すため、コース指定科目を1年次後期から開始する。コース指定科目は、専門教育科目の中からコースごとに指定され、コース指定の必修および選択必修科目により構成する。これにより卒業後も見据えたコンピテンシーの獲得を目指す。
	教育課程の編成と教育内容	2.能動的・主体的に学修し、深い専門性を身につけるために、必修科目の少人数によるセミナー科目・演習科目を4年間のすべての学期で開講し、講義形式による学びとそれらを連動させる。 4.系統的な学修を土台としつつ、早期からの主体的な学修を促すため、コース指定科目を配置し、各コース指定単位を修得することで、各コースで養成するコンピテンシーが獲得できる教育を実施する。	1.幅広い教養を身につけ、国際化や情報化に対応した能力を育むため、4年間にわたって教養科目を履修できるように配置し、特にリテラシーを高める科目においては双方向性を確保した手法を取り入れて実施する。 4.系統的な学修を土台としつつ、早期からの主体的な学修を促すため、コース指定科目を配置し、各コース指定単位を修得することで、各コースで養成するコンピテンシーが獲得できる教育を実施する。	3.課題の発見や解決力の育成を目指して全学科に課題解決型の科目を配置し、外部の組織や機関と協働してアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施する。 4.系統的な学修を土台としつつ、早期からの主体的な学修を促すため、コース指定科目を配置し、各コース指定単位を修得することで、各コースで養成するコンピテンシーが獲得できる教育を実施する。	1.幅広い教養を身につけ、国際化や情報化に対応した能力を育むため、4年間にわたって教養科目を履修できるように配置し、特にリテラシーを高める科目においては双方向性を確保した手法を取り入れて実施する。 4.系統的な学修を土台としつつ、早期からの主体的な学修を促すため、コース指定科目を配置し、各コース指定単位を修得することで、各コースで養成するコンピテンシーが獲得できる教育を実施する。	3.課題の発見や解決力の育成を目指して全学科に課題解決型の科目を配置し、外部の組織や機関と協働してアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施する。 4.系統的な学修を土台としつつ、早期からの主体的な学修を促すため、コース指定科目を配置し、各コース指定単位を修得することで、各コースで養成するコンピテンシーが獲得できる教育を実施する。	1.幅広い教養を身につけ、国際化や情報化に対応した能力を育むため、4年間にわたって教養科目を履修できるように配置し、特にリテラシーを高める科目においては双方向性を確保した手法を取り入れて実施する。 4.系統的な学修を土台としつつ、早期からの主体的な学修を促すため、コース指定科目を配置し、各コース指定単位を修得することで、各コースで養成するコンピテンシーが獲得できる教育を実施する。
	教育方法	1.講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容および期末試験により、学修の到達度を客観的に評価する。 2.教養科目も含め経済学部が担当する科目について受講者の成績評価を教授会で確認する。なお、成績評価に対して学生は異議申し立てすることができる。 3.全学期開始時に全学生に学修ポートフォリオを作成・提出させ指導に活用する。 4.演習については、専門的知識修得のための課題への取組及び成果発表等により、客観的に評価する。 5.学生が獲得したコンピテンシーは、卒業論文・研究の審査によって評価する。 6.学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。	1.講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容および期末試験により、学修の到達度を客観的に評価する。 2.教養科目も含め経済学部が担当する科目について受講者の成績評価を教授会で確認する。なお、成績評価に対して学生は異議申し立てすることができる。 3.全学期開始時に全学生に学修ポートフォリオを作成・提出させ指導に活用する。 4.演習については、専門的知識修得のための課題への取組及び成果発表等により、客観的に評価する。 5.学生が獲得したコンピテンシーは、卒業論文・研究の審査によって評価する。 6.学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。	1.講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容および期末試験により、学修の到達度を客観的に評価する。 2.教養科目も含め経済学部が担当する科目について受講者の成績評価を教授会で確認する。なお、成績評価に対して学生は異議申し立てすることができる。 3.全学期開始時に全学生に学修ポートフォリオを作成・提出させ指導に活用する。 4.演習については、専門的知識修得のための課題への取組及び成果発表等により、客観的に評価する。 5.学生が獲得したコンピテンシーは、卒業論文・研究の審査によって評価する。 6.学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。	1.講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容および期末試験により、学修の到達度を客観的に評価する。 2.教養科目も含め経済学部が担当する科目について受講者の成績評価を教授会で確認する。なお、成績評価に対して学生は異議申し立てすることができる。 3.全学期開始時に全学生に学修ポートフォリオを作成・提出させ指導に活用する。 4.演習については、専門的知識修得のための課題への取組及び成果発表等により、客観的に評価する。 5.学生が獲得したコンピテンシーは、卒業論文・研究の審査によって評価する。 6.学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。	1.講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容および期末試験により、学修の到達度を客観的に評価する。 2.教養科目も含め経済学部が担当する科目について受講者の成績評価を教授会で確認する。なお、成績評価に対して学生は異議申し立てすることができる。 3.全学期開始時に全学生に学修ポートフォリオを作成・提出させ指導に活用する。 4.演習については、専門的知識修得のための課題への取組及び成果発表等により、客観的に評価する。 5.学生が獲得したコンピテンシーは、卒業論文・研究の審査によって評価する。 6.学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。	1.講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容および期末試験により、学修の到達度を客観的に評価する。 2.教養科目も含め経済学部が担当する科目について受講者の成績評価を教授会で確認する。なお、成績評価に対して学生は異議申し立てすることができる。 3.全学期開始時に全学生に学修ポートフォリオを作成・提出させ指導に活用する。 4.演習については、専門的知識修得のための課題への取組及び成果発表等により、客観的に評価する。 5.学生が獲得したコンピテンシーは、卒業論文・研究の審査によって評価する。 6.学修成果の評価は、アセスメント・チェックリストにより実施する。